平成30年度　大阪府文化事業

資料3－1

施策の方向性	事　業　名	主な実績
A	芸術文化振興補助金	府内の芸術文化団体が行う次世代育成に資する文化活動に補助し、子どもや青少年が優れた芸術文化に親しむことによる心豊かな成長や、大阪の文化を担う人材のすそ野の拡大を図る。 ○H31年度実施予定　応募件数35件、採択件数16件 ○H30年度実施結果　応募件数36件、採択件数17件 （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆説明会での事例報告は補助事業者が自身の事業を見直し、次年度に向けて計画をたてるためのモチベーションアップにつながった。今後は、引き続き説明会を行うとともに、事例報告については、別途、交流会等を催し、そこで交流促進を行うとよいだろう。そうすることで、事業者同士が互いの事業に興味を持ち、必要に応じて主体的にネットワークを持ち、それが大阪の芸術文化の活性化にむすびつくことで、申請事業の質の向上、数量の向上にもつながるだろう。 ◆新規項目として、すべての府民に芸術文化に触れる機会をひらいていく「アクセシビリティへの配慮」の追加は妥当であり、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」をいち早く踏まえたことを高く評価したい。今後は、「アクセシビリティ」についての意識向上の機会提供が必要である。 ◆芸術文化事業が多様化し、社会包摂型の参加型事業も少なくない中、鑑賞に重きを置いた補助金目的が、はたして次世代に向けた事業として適切だとは言い切れないのではないか。他都市の事例等を参考にしながら、より次世代につながりやすいアウトカムを設定する必要があるだろう。
A	府庁本館活用事業	府庁本館を芸術文化活動の場として提供し、文化芸術団体が実施する自主的な事業を促進する。 ○3事業（コンサート、落語）を実施し、219名の参加があった。 （出演者は、3団体10名） （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆府庁本館という自治体行政の中枢にある施設にて、芸術家に発表の機会を、府民には気軽に芸術に親しむ機会の提供を、職員自らが行う「行政の文化化」を顕在化させる重要な事業である。文化的に成熟した都市の魅力を発揮することができる本事業は、ひきつづき行っていく必要がある。 ◆近代建築として評価がある会場での芸術活動をSNS等で発信すれば、大阪の文化度の高さを示すことになるだろう。SNS投稿を呼び掛けるのも一案である。いずれは、毎月決まった日に行い、市民ボランティアも運営に関わり、かつ質を落とさない事業として育てて欲しい。展開を急がず、息長く続けていってほしい。
A	大阪府アーティスト情報発信事業（バンク）	府内で活動するアーティストの情報を広く府民に紹介することで、地域や学校における府民の自主的な文化活動をサポートする。 ○ホームページで公開する情報への更新は、随時実施。 ○平成30年度末の登録件数 個人65件(新規登録3件、削除3件) 団体96件(新規登録なし) （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆大阪の芸術人材の豊かさを示す事業であるが、一方で、個人情報の管理や、経歴更新など、手間暇がかかる事業でもある。 ◆現代はSNS等で個人がつながりやすい時代となっており、アーティスト等はSNSで活動紹介し、依頼者と直接やりとりすることが多い。急ぐことはないが、上方芸能関係者はワッハ上方等に、美術家やクリエーターは江之子島文化芸術創造センター等に、あるいは各市町村や関連機関に、所管をわけるなどの、現実的に活用しやすくして発展的に終了させることも検討しはじめるとよいだろう。
A	音楽指導事業	中高生を主な対象とする管楽器、打楽器の演奏技術講習会を実施する。 ○南地区　10/7　場所：堺市立三国丘中学校　　参加者：226名（H29年度177名） ○北地区　2/10　場所：豊中市立第一中学校　　参加者：142名（H29年度188名） 参加者の満足度　82%（H29年度80%） （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆講師とのネットワーク、会場協力など、積み重ねてきたノウハウがある。また、中高生以上としているが中高生が中心。社会的格差が広がるなか、青少年のうちに、安価で平等にプロの音楽家から指導を受ける機会は貴重である。 ◆吹奏楽等を学生向けに指導する事業は、大阪市をはじめとする府内の自治体にも少なからずある。それらの開催場所や、内容をリストアップし、この事業が他とどう異なるのか特徴を把握しておくと、継続に向けての広い視野を持つことができるだろう。

A	音楽体験事業	日本センチュリー交響楽団が中心となって、子どもが楽器に触れるとともに、オーケストラの中で演奏を聴き、指揮をするなどオーケストラのあらゆる面を体験できるコンサート等を実施する。 ○タッチ・ジ・オーケストラ　16公演　参加者：1955名 ○星空ファミリーコンサート　2公演　参加者：1630名 ○支援学校コンサート　1公演　参加者：423名 ○支援学校アンサンブル　5公演　参加者：905名 ○病院コンサート　5公演　参加者：535名 （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆小学生のこども達がオーケストラに親しみをもてるように、練習室を回りながら楽器を試奏したり、オーケストラの間に入って鑑賞できる時間を設ける等、参加型の要素を取り入れる工夫をしている。 ◆一般的な定期演奏会に比べると、奏者との距離が近く、聴衆（参加者）の人数も小規模で、一体感の感じられる空間で音楽が体験できる。プロオケの活動拠点（「オーケストラハウス」）をゲストとして訪問している、という特別感も感じられる事業である。指揮者が「指揮者の役割」や自分の仕事について話したり、試奏の際には楽団員と生徒が直接話せたりと、言語でのコミュニケーションが図れるのも良い点である。 ◆試奏コーナーや指揮者体験コーナーなどでは写真を撮ってあげたら、帰宅してから家族に見せたりと、話題や関心が広がり、良い記念にもなるのではないか。
A	輝け！子どもパフォーマー事業	「メセナ自動販売機」「次世代育成型メセナ自動販売機」からの寄附金を財源として、文化に親しみ、参加、表現する機会を提供する事業のうち、子どもたち自身が参加し発表する事業に対して補助を行い、子どもたちの活発な文化活動を促進する。 ○H31年度実施予定　審査件数30件、採択件数18件 ○H30年度実施結果　審査件数26件、採択件数16件 （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆芸術文化振興補助金と連携し「アクセシビリティへの配慮」を追加したことを評価したい。 ◆芸術文化振興補助金と同様に、説明会と事例報告は分けて考え、実施する必要があるだろう。 ◆「パフォーマー」と入っているために、舞台芸術をイメージしてしまう。「芸術活動に参加し、発表する」ことは、展覧会等でも可能である。多様なジャンルや新しい表現にも補助金が届くように、名称変更等も検討しはじめるとよいだろう。
A	フェスパ次世代シアター事業	咲洲庁舎1階フェスパを、子どもたちが様々な文化・芸術に親しむ文化活動の場として提供する。 ○４月に１事業実施し、810名の参加があった。（出演者：30団体485名） （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆咲洲庁舎一階を文化活用する努力を評価したい。 ◆平成31年度は、耐震工事を行うと聞いているが、工事後の事業再開は必要である。
A	メセナ自動販売機の設置等	飲料水の自動販売機の売上げの一定割合を文化振興基金に寄附いただく、「メセナ自動販売機」の設置促進等。平成29年度末に、咲洲庁舎と府庁別館内の次世代育成型メセナ自動販売機について期間終了となることから、事業者公募を実施。 ○メセナ自動販売機の新規設置（1台） ○府立上方演芸資料館内での次世代育成型メセナ自動販売機の新規設置（1台） ○大阪府文化振興基金パンフレット作成（4,000部） ○平成31年度も文化振興基金活用事業（芸術文化振興補助金事業、輝け！子どもパフォーマー事業、芸術文化顕彰事業）を継続。 （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆寄附型自販機は、民間の力を活用した、公的文化支援の仕組みとしてよい。少量であっても着実に設置台数を増やしていることを評価したい。引き続き、着実に取り組み、設置台数を増やすとともに、デザインに優れたパンフレット等の印刷物作成を行って欲しい。
A	オーケストラハウス管理	日本センチュリー交響楽団に貸付をしているオーケストラハウス（服部緑地内）の管理等を行う。 ○計画的に補修工事や定期点検を行い、適切な施設管理を行っている。 （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆被災については損傷の規模や長期の影響が心配されたが、適切に補修がなされつつある。（視察時点）本事業「管理」のアウトカムとして「施設が利用できる環境整備」とされているが、この点については、十分に実現できているといえる。 ◆本オーケストラハウスは、練習室、楽器庫、ホール、オフィスなど、プロオケが活動するにあたり不可欠な基本設備が完備された施設である。ホール部分は全体リハーサルのほか、鑑賞事業にも利用され、響きも申し分ない。このような施設（建物全体）が、地元オーケストラ（日本センチュリー交響楽団）の活動拠点としてフルに活用されている点は、施設の本来目的に沿ったものといえ、芸術文化団体の創造活動基盤を整備する文化政策の役割からしても意義が大きく、高く評価できる。

B	上方演芸資料館（ワッハ上方）の管理運営事業	大阪固有の文化である上方演芸を後世に伝えていくため、資料の収集・整理・保存を行うとともに、資料の館内・館外展示や上方演芸の殿堂入り等通じて、府民に上方演芸に親しむ場等を提供する。 ○ワッハ上方来館者数　7,567名（H29年度14,096名） ※リニューアルのため、平成30年12月1日から休館 ○満足度　94.2%（H29年度90.4%） ○館外展示　府内2箇所（大阪工業大学梅田キャンパス、府立中央図書館）で実施 ・来場者数 47,080名、鑑賞者満足度　83.72% （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆リニューアルオープンに向けて作業するとともに、館外展示による活動周知も行ったことを評価したい。リニューアルしたことで集客力が問われることと思うが、それと同時に、数量では表しにくいが、大阪で上方芸能を次世代にひきつぐ中核施設であることを意識して欲しい。 ◆大阪の上方芸能は一部世代交代しつつあり、若手の表現者が活発に活動をはじめている。一方で、鑑賞者育成は追いついておらず、若手の観客を見かけることは少ない。そういった、大阪の現状も踏まえ、ワッハ上方が府民や来阪者に向けて、上方芸能をよりよく橋渡しする役目も担っていくと、大阪文化の魅力向上に大きく貢献する重要な施設となるだろう。
B	大阪文化芸術フェス2018	大阪の都市魅力を創造するため、文化を核とした大阪の都市魅力を発信していく事業として実施。大阪が誇る上方伝統芸能、上方演芸をはじめ、優れた音楽、演劇、アート等多彩で豊かな文化の魅力を広く国内外に発信し、インバウンドも含めた多くの観光客を呼び込むことにより、国際エンターテインメント都市の実現と、大阪の都市格の向上をめざす。 平成30年度は、大阪府、大阪市、経済界で設立した「大阪文化芸術フェス実行委員会」が、在阪放送局9社とも連携して、本事業を実施。（期間：平成30年9月29日（土）から11月4日（日）まで） ○主催プログラム　7件　公演数28回 ○共催プログラム　11件　公演数18回 ○来場者数　約438,200名 ○メディア掲載数 823件 （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆改善点として、情報発信の強化を図り、本事業の認知度の向上、定着を目指すとされ、国際発信力の強化を図るため、パンフやＨＰを4ヶ国で作成、配布した点は評価したい。 ◆一方で、国内の認知度が不足している点をどう考えるのか。情報発信の強化も必要だが、多くの人を惹き付け、大阪の都市格向上につながるようなコンテンツになっているのか考え直してほしい。投資に対する効果として、海外からわざわざ「大阪文化芸術フェス」を見に来阪するようなクオリティを目指すことを検討したらどうか。そのためには、核となる理念・ビジョンが必要ではないか。 ◆ファッションショーで、青少年との接点を持てたことが良かったとの話を聞いた。文化振興計画（B）「文化創造の基盤づくり」②「将来の社会の担い手となる青少年の育成」につながる成果として、評価したい。こうした芽を今後どう育んでいくのか、企画者の姿勢が問われる。
B	芸術文化顕彰事業	大阪の文化・芸術に多大な貢献のあった方の顕彰等により、大阪の文化振興の機運醸成や都市魅力のアピールを行う。（大阪文化賞、大阪文化祭賞、山片蟠桃賞） ○大阪文化賞 受賞者：朝井まかて（作家） 授賞式：H31.2.12　シティプラザ大阪 ○大阪文化祭賞 【大阪文化祭賞】 受賞者：坂東竹三郎（伝統芸能・邦舞・邦楽） 六代目笑福亭松鶴生誕百年祭実行委員会（現代演劇・ 大衆芸能） 尾高忠明指揮　大阪フィルハーモニー交響楽団（洋舞・洋楽） 【大阪文化祭奨励賞】 受賞者：浦田保親、水野箏曲学院（伝統芸能・邦舞・邦楽） 人形劇団クラルテ、空晴（からっぱれ）（現代演劇・ 大衆芸能） 日本センチュリー交響楽団、DANCE PROJECT 218.（ダンスプロジェクトニイヤ）（洋舞・洋楽） 授賞式：H31.3.15　リーガロイヤルＮＣＢ ○山片蟠桃賞 受賞者：ハルオ・シラネ（Haruo Shirane） アメリカ・コロンビア大学東アジア言語・文化学部教授（日本文学・日本文化）、学部長 授賞式：R元.6.17 （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆アーティストが表彰を受けることは、非常に励みになるので両賞とも今後も継続すべきであるが、賞の知名度が低下していることから広報の仕方に工夫を加える必要がある。 ◆大阪文化祭賞については、特定のジャンルに推薦が集中している。まずは、幅広い世代の意見を反映する審査環境を整えつつ、今後はジャンルの多様化などへの対応も考え、計画的な裾野拡大の工夫が必要である。 ◆山片幡桃賞については、日本文化の国際性を、大阪発信で高める貴重な事業である。継続して行うべきである。

B	大阪文化再発見事業	「大阪文化」の豊かさを再認識するため、市町村、大学及び研究機関等と連携し、「おおさかふみんネット」や「阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット」を立ち上げ、府民向けの共催講座を実施する。 ○阪神奈公開講座フェスタ　講座数：20講座、参加者：949名 ○おおさかふみんネット　　講座数：13講座、参加者：1,000名 （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆広域自治体の特性を活かした市町村との連携、京阪奈という広がりでの大学連携と、府ならではの公的な文化ネットワークがあることは、非常に重要であり評価したい。 ◆アウトカムに、府民の学習機会の提供とし、参加者数や満足度を尺度にしているが、本来ならば、広域等の「ネットワーク」が活かされているかがアウトカムに記載されるべきであろう。また、そのネットワークが活性化することで、府文化課の広報力のみならず、各自治体との広報力を相乗活用できる。 ◆広域自治体の文化行政において非常にポテンシャルがある事業であることを課内で共有することを希望する。
B	アートスポット魅力発信事業	公共の空間や施設内において、都市魅力を向上させ、観光集客につながるようなアート作品を設置することにより、大阪に新たな名所（アートスポット）を創出する。 ○作品設置候補地となった万博記念公園における事業の具体化を図るため、公園事務所との打ち合わせや大阪万博50周年記念事業（2020年度）との連携に向けた調整などの取組みを行った。 ○万博記念公園を、2025年大阪・関西万博の関連会場として活用する方針が示され、その動向等も視野に入れる必要が生じたため、改めて今後の対応を検討していく。 （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆新しい作品設置により、大阪トリエンナーレ等で収集した美術作品と連携して、大阪の美術力を知らしめえる事業である。 ◆長期的な視野、あるいは新しい観点を持ち、府内各所に設置されている大阪府コレクションの活用とともに進めて欲しい。
C	江之子島文化芸術創造センター管理運営事業	文化芸術の振興を図り、大阪の都市の魅力の向上に資するため、絵画等の収蔵作品の管理活用、交流・活動場所の提供、アートやデザインを活用した社会課題の発見、解決等、創造的な活動機会の創出を支援するための協働の拠点づくり等を実施する。 幅広い人々に情報を伝えるべく、雑誌、新聞、WEB媒体への情報掲載依頼を積極的に行うと共に、展覧会時については、新聞社の後援を得ることで情報の周知を図った。 ○来館者数　延べ100,082人 ○企画展示 「enocoおしゃべり美術館」平成30年8月4日～8月26日　来館者数 1,045人 「『プレスアルト』誌と戦後関西の広告」平成30年10月2日～10月13日　来館者数 789人 「間合いの良さ―コレクション考察―」平成31年1月11日～1月27日　来館者数 1,258人 ○えのこdeﾏﾙｼｪ(6月、8月、1月)　※近隣住民の来館促進、ｸﾘｴｲﾀｰと住民との交流の場の提供 ○ニュースレターの発行（5月、9月、1月・各1万1千部発行） ○コレクションキャラバン　※府内の学校等に美術作品を持ち込み、解説付きの展示等を行う ○絵画等所蔵作品活用点数 971点（内、「大阪国際がんセンター」176点等） ○eno so done！（自治体等からの個別相談）実施回数 13回　（H29年度：13回） ○文化芸術に関する活動を行った延団体等の数　804件　（H29年度：649件） ○多目的ルーム1～4（展示室仕様）29.6%（H29年度：34.0%） 多目的ルーム5～12（会議室仕様）53.6%（H29年度：41.1%） （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆アウトカムは、本事業の現状の目標達成度を踏まえ、単年度で実現可能な具体的な成果も考え、挙げてほしい。たとえば、今年度であれば、タワーマンションの住民との交流などがあげられるのではないか。 ◆また、地下のフリースペースに、新しいカフェの誘致を行い、クリエイターや府民がより気軽に交流できる場を作った点は高く評価したい。「クリエイターや府民がより気軽に交流できる場を作る」という点をアウトカムとして、新しいカフェの誘致を行い、新たな交流の場をつくったと評価することもできる。 ◆文化基本計画に掲げる「社会のための文化」を具体化する拠点として大きな役割を果たしている点は高く評価したい。 ◆今一度、アウトプット、アウトカムのそれぞれの評価軸をenocoが何に力をいれるべきなのかなど事業の現状に照らして、再考していただけないだろうか。加えて、評価軸を作る際は、担当者でなく関係者が広く議論して共有することが、より事業改善に結びつきやすくなることを指摘しておきたい。

C	プラットフォーム形成支援事業	アーティストやデザイナー、府民、NPO、大学、企業等の多様な立場の組織や人が集まってプラットフォームを形成し、対等な立場で交流・対話を行い、アートやデザイン（コミュニティデザイン含む）を手法として、共に課題の検討や事業を推進するための支援を行う。 （新規案件） ○生野区：多文化共生 ○泉南市：集会場の利活用 ○泉大津市：あしゆびプロジェクトの定着 ○岬町：まちの魅力の発掘・発信方法 フォーラム ○国内外の先進事例で話題を集める講師を招聘し、参加者と知見を共有するフォーラム 「Osaka Creative Forum」 H30のテーマ：“クリエイティブ・プレスメイキング”（H31年3月29日）　※来場者数166人 （アーツカウンシルからの主な評価・提案） ◆「教育、福祉、まちづくり等のあらゆる施策分野への活用」していく事業として高く評価したい。こうした事業に一番肝要なのは人材、ネットワーク、ノウハウだと考えられる。それらは、一朝一夕で積みあがるものではなく、少なくとも10年間は継続し、中長期的に成果を見守る事業ではなかったか。こうした事業が今年度で打切られるのは、非常に残念である。 ◆フォーラム「クリエイティブ・プレスメイキング」については、先進事例として豊岡市の事例を取り上げ、著名人などの話を聞き、広くアートと地域への関心を持ってもらうということも悪くはない。ただ、プラットフォーム形成支援事業の先進性とはやや質が違うように思った。その点の掘り下げがなく、本事業との関連性・位置づけ、今後の展開への方向性がわかりづらかった。 ◆むしろ、プラットフォーム形成支援事業のこれまでの成果に焦点をあてた発表会形式とし、著名人を呼ぶのであれば、そうした成果を第三者の視点でコメント・再評価していただき、成果を踏まえ、それをどう承継していくのかを正面からテーマにした方がよかったのではないか。プラットフォーム形成支援事業の成果をどう承継していくのかが、この事業の喫緊の課題である。 ◆「府の関与終了後も関係者による自立的、継続的運営ができるノウハウの提供」とアウトカムに掲げられているが、ノウハウ集の配布だけでは不十分ではないか。シンポジウムの開催など、これまでの成果を継承する事業を他の事業のなかで具現化するなどを検討してほしい。

凡例：第４次大阪府文化振興計画　施策の方向性
A　文化創造の基盤づくり
B　都市のための文化
C　社会のための文化